

2. ワークショップ等の開催

県民に対し、サンゴ礁の現状や保全活動の必要性等についての認識や本事業についての理解度を高めるため、及び地域や関係団体等の現状を把握することを目的とし、県内の各地でワークショップを行った。ワークショップは、協議会総会と同時に12月に那覇で開催し、その後、2009年1月に宮古島、2009年3月に北谷で行った。

ワークショップの実施概要

開催年月日	場所	関係団体 (参加者数)	備考 (協力団体)
2008年 12月13日	那覇市 沖縄産業支援センター	沖縄県サンゴ礁保全 推進協議会、サンゴ礁 保全関係団体(100名 -概算-)	協議会総会・シンポジウムと同 時開催 (沖縄県サンゴ礁保全推進協 議会)
2009年 1月17日	宮古島市 宮古島市役所	ダイビング業者・エコ ツアー業者・観光協会・ 役場・市民(10名)	ワークショップのみ開催 (NPO法人海の自然史研究所)
2009年 3月8日	北谷町 宮城区公民館	自治会・ダイビング業 者・漁業者・市民・サ ーフィン団体(21名)	パネル展も同時開催 (NPO法人エコ・ビジョン沖縄)

2-1. ワークショップ北谷町

(1) ワークショップ概要

日時：3月8日（日）午後2時～5時

場所：北谷町宮城区公民館ホール

参加者：地域住民、北谷町漁業協同組合、北谷町海域事業所協力会、沖縄サーフライダー連盟、サーフライダー・ファウンデーション・ジャパン、北谷公園サンセットビーチライフセービングクラブ（合計21名）

ワークショップのテーマ：「北谷町の海と宮城海岸・サンゴ礁の保全と利用を考える」

ワークショップの実施手法：①出席の各団体が実施するサンゴ礁保全及び海域環境保全に関する活動内容の説明を会場へ展示したパネルを用い説明。②休憩を挟み、フィッシュ・ボールという手法で、参加者全員が上記のテーマに沿って、「気になること・問題点」、「取り組むべき課題」に関して意見や提案を出し合った。

(※ワークショップの内容に関する詳細は、第5章を参照)

【北谷町で実施したワークショップの様子】



2-2. ワークショップ宮古島市

(1) 趣旨

沖縄県の豊かな自然環境の基盤として、生物多様性の保全、漁業資源・観光資源として重要な価値を有しているサンゴ礁を保全・再生していくために、行政、ダイビング事業者、漁業者、企業、NPO等自然・環境保護団体、市民、観光客等の様々な主体が参加する官民協働のサンゴ礁保全・再生推進体制を沖縄県全体及び県内各地において構築すること目的とし、これら主体の合意形成や参加手法の確立を図るためのワークショップを行った。ワークショップでは、サンゴ礁の現状や保全活動の必要性等についての認識や、本事業についての理解度を高め、地域や関係団体等の現状を把握した。

(2) ワークショップ概要

日時：平成21年1月17日(土) 19:00～21:30

場所：宮古島市役所3階 会議室

参加者：10人

勉強会

テーマ：「宮古島の自然環境の重要性について 水域研究から」

講師：藤田喜久 琉球大学非常勤講師/海の自然史研究所代表理事/理学博士

ワークショップ

テーマ：「宮古島の自然・サンゴ礁を大事にする活動の連携に向けて」

進行：平井和也 NPO 法人海の自然史研究所 事務局長

実施手法：自己紹介の後、ワークショップは「現活動の共有」、「強化をするには」、「追加をするには」、「連携とは」の流れを踏まえて次の0～5のステップで進行した。

(3) 勉強会

勉強会のスライドを以下に示す。

サンゴ礁生態系保全活動推進事業 宮古島ワークショップ

宮古の自然環境の重要性について： 水圏研究の視点から

藤田喜久
(福大・大学教員センター・防災推進課/NPO法人 海の自然史研究会)

2009.01.17

宮古の自然環境

湧水（地下水）環境

ウリガーテナガエビ
 ＊宮古島のみで確認
 ＊標RDB：絶滅危惧Ⅱ類
 ＊2005年に新種記載された

ミヤコサウガニ
 ＊宮古島固有種
 ＊環・沖RDB：絶滅危惧Ⅰ類

森林環境

ミヤコヒメヘビ
Calamaria pflafferi Stejneger, 1901
 ＊宮古島・伊良部島固有種
 ＊環・沖RDB：絶滅危惧Ⅱ類

サンゴ礁の様々な環境

サンゴ礁の様々な環境

サンゴ礁の様々な環境

サンゴ群集
 海底洞窟
 海藻藻場
 ガレ場

微環境の違いで生息する生物も異なる

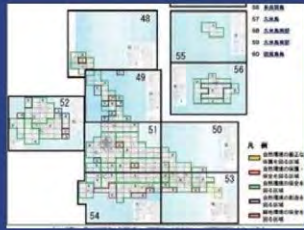
宮古の自然環境の重要性

環境省「日本の重要湿地500」

- No. 472 八重干瀬
- No. 473 宮古島中北部の湿地
- No. 474 宮古島の洞窟群と湧泉群
- No. 475 池間島湿原と周辺サンゴ礁
- No. 476 鳥尻入江
- No. 477 宮古島東部（東平安名崎）沿岸
- No. 478 嘉手刈入江
- No. 479 与那覇湾およびその周辺
- No. 480 伊良部島の入江

宮古の自然環境の重要性

沖縄県「陸域における自然環境の保全に関する指針」



- 評価ランクⅠ**
(自然環境の真正な保護を図る区域)
- 評価ランクⅡ**
(自然環境の保護・保全を図る区域)
- 評価ランクⅢ**
(自然環境の保全を図る区域)
- 評価ランクⅣ**
(身近な自然環境の保全を図る区域)
- 評価ランクⅤ**
(緑地環境の創出を図る区域)

宮古の自然環境の重要性

沖縄県「陸域における自然環境の保全に関する指針」

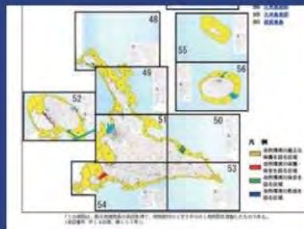


- 評価ランクⅠ** (自然環境の真正な保護を図る区域)
原生の自然地域、抽出した自然景観、学術上特に価値の高い自然物などは、多様な生物種を保存しており、自然適正として後世に伝えなければならないものであり、真正な保護を図る必要がある区域。
- 評価ランクⅡ** (自然環境の保護・保全を図る区域)
自然の均衡を維持する上で重要な役割を果たす自然地域、すくれた風景、貴重な野生生物の生息地など、良好な自然地域であり、適正な保護・保全を図る必要がある区域。



宮古の自然環境の重要性

沖縄県「沿岸域における自然環境の保全に関する指針」



- 評価ランクⅠ**
(自然環境の真正な保護を図る区域)
藻場、干潟、サンゴ礁が発達するなど、健全で多様な生態系が維持されている沿岸海域で、真正な保護を図る必要がある区域。
- 評価ランクⅡ**
(自然環境の保護・保全を図る区域)
- 評価ランクⅢ**
(自然環境の保全を図る区域)
- 評価ランクⅣ**
(自然環境の創出を図る区域)

海と陸(陸水)との繋がり



一生の一時期を海で過ごす。→海と陸との連続性が必要。

湧水と海との繋がり



回遊経路が地下にある(地下を歩いて行き来する)

サンゴ礁で起こっている諸問題

人間活動による直接的影響

- 赤土の流出
- 生活・畜舎排水による水質汚染
- 崖岸・道路工事による地形変化
- 埋め立てによるサンゴ礁の消失
- 乱獲による水産資源の減少
- 観光による遺棄利用

自然現象

- オニヒトデ・巻き貝などの食害によるサンゴの減少
- 海綿(テルピオス)による被覆
- 病気によるサンゴの減少
- 白化現象によるサンゴの減少

人間活動による間接的影響の可能性



サンゴ礁の価値(役割)

- 自然の防波堤(対浸食効果)
- 生物生息機能
- 浄化機能
- 二酸化炭素吸収(固定)※1
- 漁場・水産資源
- 生活物資・建築資材
- 観光資源
- 生物資源(医療・新産業の創出)
- 研究・教育の場
- 景観
- 独特の文化を育む場



※1: 多くの異論がある。

サンゴ礁生態系の保全に向けて

「守るべき」対象は何か?

- 「サンゴ礁生態系」とはかなり包括的な概念であるので、個々によってその捉え方が異なる可能性があることに留意する必要がある。
- 手法やゴールが異なるばかりでなく時に、対立を産む要因になる



「教育・普及啓発」の重要性

- 学校教育との連携
- 「地域に向けた教育普及啓発」を支援する仕組みの必要性



(4) ワークショップ

自己紹介の後、ワークショップは「現活動の共有」、「強化をするには」、「追加をするには」、「連携とは」の流れを踏まえて次の0～5のステップで進行した。但し、ステップ5は時間超過で具体的な議論をするところまでは至れなかった。終わりに、今回の会のような情報共有をおこなうことや、課題を誰がどのようにして解決していくのかを継続して話をしていく場として「宮古島サンゴ礁保全推進協議会」という機関があってもいいのではないかと提案した。

ワークショップの手順

順番	段階の説明	備考
ステップ0	あなたにとって、サンゴ礁はなぜ大事な のか。	KJ法により、1つの活動 に対し1枚のポストイッ トで、できる限り洗い出し
ステップ1	網羅。宮古でおこなわれている海を大事 にすることにつながる活動をみんな知っ ているかどうか確認。	
ステップ2	分類。どういう分類をすれば、強化や追 加が見えやすくなるか考えて貼りだし、貼 り出したものを、進行役が読みあげて、内 容の補足説明を記入者に促す。	
ステップ3	強化・改良。活動が十分か不十分か議論 し、不十分な場合、強化や改良するため にはどうすればよいのか議論。	
ステップ4	追加。足りない活動には何があるのか、 どうすれば足りるようになるのかを議論。	
ステップ5	担当。強化や改良、追加をするのはだれ がやるのか、やれるのか、やれるようにど う働きかけるのか。	事務局から提案「こうい う動きを、地域で常に共有 できる環境、協議会をつく るのはどうか」

各ステップでの参加者の意見

ステップ0

何かが生み出される場として 大事なサンゴ礁	見せるもの、使うものとしての 大事なサンゴ礁
<ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの存在として重要 ・生きる土地であり、それを防護するものでもある ・新たな発見を与えてくれる(直接・間接) ・私に新たな発見、感動を与えてくれる ・多様な生態系の維持にとって ・環境保全のシンボル ・環境の健全さの指標となる ・水質浄化の役割として ・サンゴ礁から資源が生まれる(魚貝類) ・人間生活の重要な役割 ・陸地(島)を形成する ・魚貝類の住みかであり、餌場である ・身近に感じられる場所(自分の、私たちの海という感じ) ・見てて楽しい、単純に楽しい ・楽しく遊ぶため 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源として ・観光客のため ・景観として ・美ら海維持 ・生き物を見るため ・仕事の場 ・漁業 ・魚が釣れる ・生きる糧 ・環境教育の場として ・他地域でみられない環境、生物群集に興味を引かれる

ステップ1

サンゴ礁を 利用している	サンゴ礁を 大事にしている	サンゴ礁に 影響している
<ul style="list-style-type: none"> ・サニツ、浜下り ・観光 ・八重干瀬上陸観光…大事にしなればと思いがら、上陸でサンゴをこわしている・経済活動 ・漁、漁業 ・ビーチバーベキュー ・サンゴの箸おき ・サンゴの装飾品 ・土産物 ・漂流物アート ・白砂の素 ・ロケ ・サーフィン ・ダイビング、スノーケリング ・マリンレジャー ・釣り ・サンゴのネット販売 ・密漁 ・観光イベント ・コンサート 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンカーを使わない、アンカーブイ(水中ブイ)の設置 ・オニヒトデ駆除 ・架橋工事のためのサンゴ移植 ・ビーチクリーンアップ&調査 ・リーフチェック ・観察会、観察会での教育 ・場所場所に名前を付けている、覚えている ・募金活動 ・サンゴ礁に関する教育(フィールドまたは室内) ・尊い場所として伝えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・海やビーチへの不法投棄 ・ボートでのアンカリング…ダイビング以外 ・餌付け ・農業 ・家畜の排せつ物 ・生活排水や都市排水が流れ込んでいる ・ダム、橋、港建設 ・地下水、地表水を通じた負荷 ・土地利用、改変 ・赤土流出 ・下水道のたれ流し ・昔は石灰を作るためにサンゴを採っていた

ステップ3、4

- ・下水整備
- ・サンゴについての理解を深める…学校教育の強化
- ・関心の薄い人への対応…アプローチを変え、生活文化や民俗からのつながりを
- ・バイオリン肥料の利用促進、しかし解決されないといけない問題がある
- ・観光客へのメッセージ、アプローチ
- ・島の人たちみんなで、環境負荷軽減に意識を持つ必要がある
- ・日焼け止めや化粧品などもサンゴに影響を与えているという認識
- ・餌付けの問題意識

【ワークショップの様子】



2-3. 第一回総会ワークショップ

(1) ワークショップ概要

日時：平成20年12月13（日）午後4時～5時30分

場所：沖縄産業支援センター・1階ホール

参加者：一般県民、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会会員、益戸育江氏（合計52名）

ワークショップのテーマ：「ネットワークをつくる意義と期待される緊急の取り組みは何か？」

(2) ワークショップの実施手法

①サンゴ礁の保全活動を推進する上で、保全活動に必要な「ネットワークをつくる意義と期待される緊急の取り組みは何か？」というテーマに関して、会場へ用意した5つのテーブル（各テーブルにはテーマに対する視点がそれぞれ設定されている）へ参加者が自由に選択して着席した。

【用意した5つの視点】

- A [基地、開発、環境行政、まちづくり、森、赤土、栄養塩等の視点から]
- B [離島、国内、国外のサンゴ礁保全活動の状況から]
- D [観光業、漁業、その他の視点から]
- E [海の環境を取り巻く環境教育の視点から]

②人数の配分を調整した後、各テーブルのファシリテーターを協議会理事が2人／組でつとめ、KJ法により参加者の意見や提案をポストイットで集約、整理。

③整理された内容をお互いに確認し、発表者を参加者から相互に選出し、各グループが3分間の持ち時間内で検討内容をワークショップ参加者全員へ説明。

④ワークショップの総括として、西平協議会会長と中野副会長よりワークショップ全体に関する講評を行い終了。

【ワークショップの様子】



(3) ワークショップのまとめ

【Aチーム】 基地、開発、環境行政、まちづくり森、赤土、栄養塩等の視点から

ゴール

- ・ 海と森のつながりをみんなが知ることが大切
- ・ 農家の人、海人の生活も守りながら環境保全を
- ・ 猟師さん(カキ)「森は海の恋人」地域住民と農家に合成せっけん不使用！！
- ・ いろんな立場の人たちが「サンゴ礁保全」でつながる「海-陸-暮らし」こ

様々なツール

- ・ 行政だのみより地元住民が動くべき！
- ・ 一般市民も気軽に取り組める活動メニューを考えること
- ・ どのような人たちに何をどう伝えれば、現状を打開できるのか？(より効果的に)
- ・ 一般の住民に分かりやすく危機保全の必要性を周知させる
- ・ 地元の人たちが何に目を向けてどうしたいのか？
- ・ 行政・事業・地域振興という流れでなんとなく「妥協」させられているぞ～！！
- ・ 自分自身の中でサンゴ(礁)がどのような存在か？
- ・ 「サンゴ礁を守るために何が出来る??」は難しいのでは？まずはサンゴに触れてもらうこと！

アプローチ

- ・ ニライカナイ信仰の意義を再度、ウチナンチュが考え直す必要がある
- ・ 社会学的なアプローチで活動内容を考える必要あり
- ・ このサンゴ礁を守ることがどの程度

現状も問題・課題

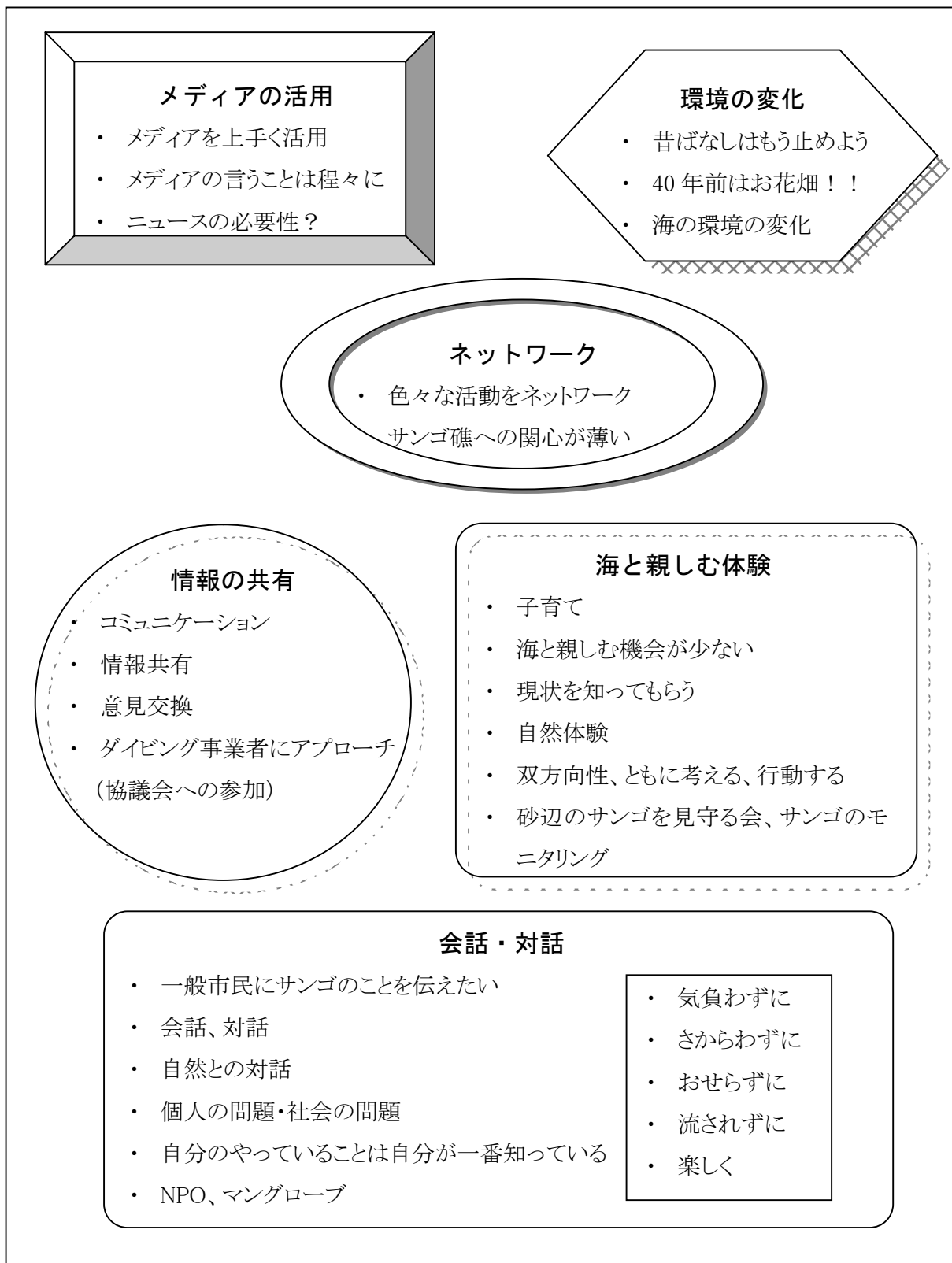
- ・ 水と地中の栄養分がおかしなサイクルになってきている
- ・ 1月に埋立が始まる「泡瀬」に対して、協議会が何かできないものか？
- ・ ヤンバルの森も疲弊してきている！！メカニズムが狂ってきた
- ・ 除草剤と有機スズが問題
- ・ 沖縄独自の厳しい基準づくり

【Bチーム】離島、国内、国外のサンゴ礁保全活動の状況から

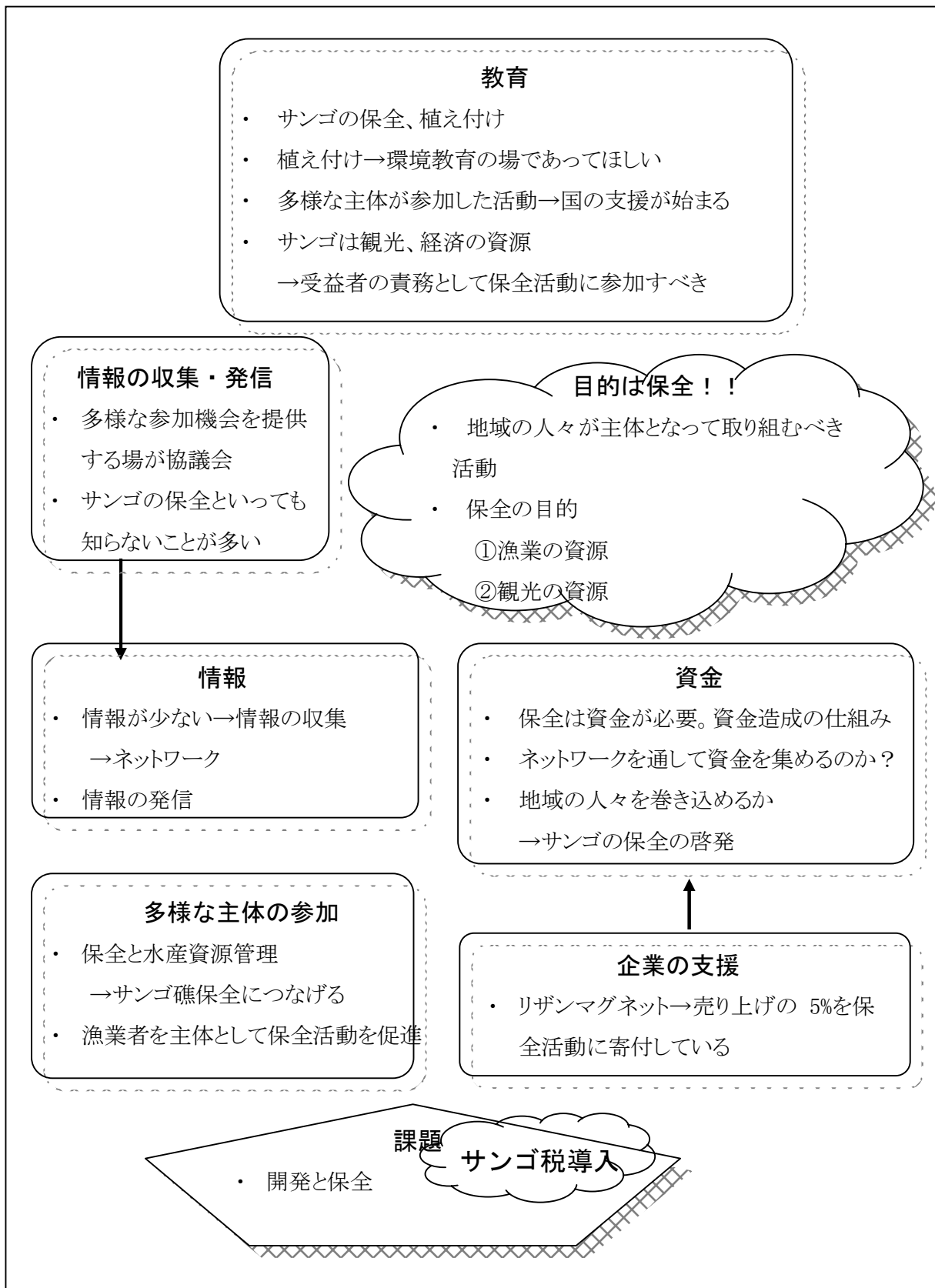
- ・地域の活動を掘り起こし、情報を共有すること
- ・サンゴ礁の現状を記録した資料がない。
- ・地域に関心をもってもらいたい
- ・富着。30年前はアジケもたくさんいた。サンゴもいっぱいだった。この事実を知ってもらいたい。
- ・法律でサンゴを守るものがない（山での保安林のような）。その仕組みを作るように提言
- ・法律と予算は別
- ・様々な利害関係者が参画することが必要
- ・サンゴ全体を対象とした法体系の確立
- ・黒島。栄養塩の影響。畜産と両立の困難さ。
- ・白保。できることから取り組んでいる。いろんな地域での取り組みの情報があるといい。
- ・開発計画が決まってからわかることがある。事前にいいところをわかる情報があるといい
- ・石垣。オニヒトデ大量発生でサンゴは壊滅的。深いところいる。来年は、どうなるか。サンゴに関心あるひと少ない。
- ・サンゴ植え付け。環境教育。地域のかたに意識を向けてもらう。
- ・ネットワークは継続すること
- ・サンゴを大事にする仕組みづくりが必要。そのために、すそのを広げる。一般のひとの関心をよせるために、情報を伝える
- ・情報の出し方をどうやるか
- ・ある環境を大事にする
- ・情報を集める。仲間を集める。

まとめ

- ・地域の情報を集め、共有することで一般の人の関心と呼ぶ。
- ・効果的なサンゴ礁保全をすすめる
- ・無理なくやれることをやり、協議会を継続していくことが重要



【Dチーム】観光業、漁業、その他の視点から



【Eチーム】海を取り巻く環境教育の視点から

	問題	アイデア・チャンス
人	<ul style="list-style-type: none"> ・海は危ないから入っちゃいけないと言われていた子もいる ・海に入る人のモラル ・地元！次世代をいかに育てられるか。どういった方法で？ ・沖縄の人は海に行かない ・海と親しむ気持ち減ってる？上の世代から習いたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じるできない人が感じられる動機付け ・カッコイイ！ ・海洋のヒーロー ・気持ちいい！おもしろい！楽しい！（参加者を集めるために） ・子供を通して親、兄弟を引き込む ・身近な大人→子どもへ ・世代をつなぐ仕組み <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">魅力！</div>
モノ	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の素材が少ない ・海の中の行事が少ない（環境教育） ・学校教育でサンゴのこと、イノーのことを知る仕組み ・学校（特に小学校）はキーパーソンがいなくなると活動がなくなる ・サンゴの移植は啓蒙になる ・いろんなネットワークのカタチ（インターネット、新聞など） ・いろんな分野の人がいる方がよい ・若狭の海岸はサンゴ、魚がたくさんいるのがあたりまえだった 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態を見せる ・フィールドに出て触らせる ・関わることで思い入れが生まれる ・人形劇 ・ダイビング、教育的視点取り入れる ・サンゴの植え付け ・学校のカリキュラムに <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">つなぐ</div>
お金	<ul style="list-style-type: none"> ・お金がかかる（子供1人に大人2人必要） ・継続させるために 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの活動をコーディネート ・移住者、関心高い。手弁当で助っ人になってくれる。 ・海を守ることが当たり前

3. シンポジウムの開催

本事業が目的とする官民協働によるサンゴ礁保全活動推進の意義について、また、設立した協議会の存在及び協議会への参加を広く県民へ啓発を図るため、協議会の第1回設立総会に併せてシンポジウムを開催した。シンポジウムは、「あなたの地域を応援します！－多様な主体の連携と総合的なサンゴ礁保全－」を基本テーマにして、①サンゴ礁保全活動の推進を訴えるため、著名な講師を講演者として招いた基調講演、②基調講演を聴講に来た一般参加者と協議会会員等によるワークショップの開催、③サンゴ礁保全活動を実践している各団体によるポスターセッション（活動交流会）の3部より構成し、開催した。以下にその概要を整理する。

3-1. 基調講演

(1) 概要

日時：平成20年12月13日（日）午後3時30分～4時

場所：沖縄産業支援センター・1階ホール

講演者：益戸育江氏（芸名：高樹沙耶）

テーマ：「地球に暮らす美しい生き方－海の汚れを感じ学びだした環境のこと－」

参加者：一般県民、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会会員、活動交流会参加者（合計約150名）

(2) 基調講演の要旨

女優業を続ける傍ら、趣味でフリーダイビングを始めて海や自然環境のことを感じ、考え始めました。同時に、海がこんなにも汚れていたのかと実感しました。この先、人類が地球で生き続けるためには、人間社会だけで成立していた思考を変えなければいけないということ、地球に暮らす正しく美しいマナーとは何かということを実験的に考え、自ら行動を起こさなければならないと思います。習慣を切り替えるのは容易ではありませんが、今までの消費中心の社会やライフスタイルが地球環境を悪化させているとするならば、取り返しのつかないことになる前に、引き返すことが人間のとるべき正しい、美しい行動なのではないかと思います。自身、千葉県に環境に配慮した家を造り、米や野菜、味噌や醤油に至るまで可能な限り自給自足の生活を実践しています。本日、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会の第1回総会が開催されたと聞いています。皆さんの活動が今後大きな波となってサンゴ礁保全が各地で取り組まれるようになることをご期待いたします。

【基調講演の様子】



(3) シンポジウム広報用のチラシ

シンポジウムの開催を案内するチラシを作成した。チラシの仕様は次のとおり。

チラシの仕様：サイズ A4（両面）、1000 部

チラシの内容：シンポジウムプログラム、講演者紹介、設立趣意書、基本理念

チラシ



3-2. ワークショップ

(1) 概要

日時：平成20年12月13（日）午後4時～5時30分

場所：沖縄産業支援センター・1階ホール

参加者：一般県民、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会会員、益戸育江氏（合計52名）

ワークショップのテーマ：「ネットワークをつくる意義と期待される緊急の取り組みは何か？」

（上記のワークショップの内容に関しては、前述の「2. ワークショップの1-3 第1回総会ワークショップ」を参照）

3-3. 活動交流会

(1) 概要

日時：平成20年12月13（日）午後3時～5時30分

場所：沖縄産業支援センター・1階展示場

参加者：沖縄島及び離島でサンゴ礁保全や海域環境保全に取り組む各種団体（合計15団体）

活動交流会のテーマ：「サンゴ礁保全活動がつなぐヒト・モノ・コトそして明日」

同時開催：国際サンゴ礁年巡回企画展（サンゴとジュゴンのパネル展）

活動交流会の開催手法：活動交流会に参加する団体を事前に募り、参加団体へ90×180cmの展示パネル及び机を各1～2点貸与し、ポスターや各種展示物によるポスターセッションを行った。

【活動交流会の様子】



4. パネル展の開催

協議会の認知度を高めることを目的とし、沖縄県が作成したサンゴ・ジュゴンのポスターパネルを、県内各地にて巡回展示した。同時に、パネル展では平成 20 年度協議会活動として、協議会の紹介パネルも掲示した。また、国際サンゴ礁年 2008 のイベントとしても位置づけて、国際サンゴ礁年 2008 公式ホームページやメーリングリストなどで開催を広報した。開催に際しては、各地域の自然環境保全に関する団体の協力を得て実施した。

パネル展は 2008 年 10 月から 2009 年 3 月までの期間、宮古島、石垣島、久米島、沖縄島（南、中、北部）で以下の通り開催した。

パネル展の開催概要

開催期間	地域	場所（のべ観覧者数-概算-）	備考（協力団体）
2008 年 10 月 10 日-10 月 16 日	宮古	宮古島市：宮古空港（100 名）	NPO 法人おきなわ環境クラブ
2008 年 10 月 26 日-11 月 1 日	八重山	石垣市：離島旅客ターミナル（100 名）	八重山サンゴ礁保全協議会
2008 年 11 月 6 日-12 月 5 日	久米島	久米島町：久米島空港・久米島町役場・具志川改善センター・久米島町自然文化センター（200-300 名）	久米島ホテルの会
2008 年 12 月 13 日	沖縄南部	那覇市：沖縄産業支援センター（100 名）	沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 協議会総会同時開催
2009 年 2 月 5 日-2 月 26 日	沖縄北部	本部町：沖縄美ら海水族館（100 名）	沖縄美ら海水族館
2009 年 3 月 8 日	沖縄中部	北谷町：宮城区公民館（30 名）	ワークショップ同時開催

各地での開催の様子

宮古地域	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div> <p>(協力団体コメント：展示ポスター設置当日、設置作業終了後にちょうどツアーの団体客が到着し、案内を待つ間ポスターを見ていた。その他の巡回時には飛行機の到着と合わなかったためか、見学者が少なく残念であった。もう少し早めにポスター展を宣伝することができたら観光客以外の人にも見てもらう機会が与えられたのではないだろうか。充実したポスター内容であったので是非宮古のより多くの人に見てもらいたかったと感じている。</p>
八重山地域	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div>

<p>久米地域</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(協力団体コメント：期間中に、展示会場を移動する事（全4会場）で、約1,000名ほどの島民や観光客の方々に見ていただくことが出来たと思います。ホタルの会の事務局としましては、環境への意識が、ゆっくりとしか芽生えない離島では、こうしたイベントへ足を運んでもらうための工夫と努力を、惜しまずに励んでゆきたいと考えています。これからも、こうした機会がありましたら、ぜひ、お声をかけていただきたいと希望しています。)</p>
<p>沖縄島南部地域</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>沖縄島北部地域</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

沖縄島中部地域



新聞掲載

久米：琉球新報（平成20年11月27日掲載）

誇り

**サンゴ礁の生態を紹介
久米島でキャラバン企画展**

【久米島】久米島ホタルの会（宇江原綾清会）が六日、久米島自然文化センターで開かれた「サンゴ礁生態」の企画展。久米島ホタルの会代表は「メジマホタルやオキザサワヘビを守ることは海を守る」と、私たちの暮らしを守ることに繋がる、その思いを受け取ってほしい」と述べ、来場を呼び掛けた。同展は、久米島自然文化センターを母体に、十二月四日、真志川農村環境改善センター、久米島空港ロビー、久米島町役場仲里庁舎で順次開かれる。（中略）

久米島ホタルの会代表は「メジマホタルやオキザサワヘビを守ることは海を守る」と、私たちの暮らしを守ることに繋がる、その思いを受け取ってほしい」と述べ、来場を呼び掛けた。同展は、久米島自然文化センターを母体に、十二月四日、真志川農村環境改善センター、久米島空港ロビー、久米島町役場仲里庁舎で順次開かれる。（中略）

**住民待望の
小公園開園**

浦添市当山二丁目地域住民の思いの場となる当山小公園が二十三日に開園した。同日は記念式典とグラウンドゴルフ大会が行われた。式典には、浦添市長、市議会議員、関係者や市議員の多くが出席し、祝辞を述べた。子ども会は誇りを写真や三線、当山青年

八重山：八重山日報（平成20年10月30日掲載）

**サンゴ礁キャラバン企画展
石垣港離島ターミナル**

画展（主催・国際サンゴ礁年2008沖縄ワーキンググループなど）が十一月四日まで、石垣港離島ターミナルで行われている「写真」。

市民や観光客らにサンゴ礁の海の素晴らしさや身近な存在であること、また、現状を知ってもらうことが目的。

展示では、サンゴとジュゴンに関するパネル二十三枚のほか、八重山ダイビングフェスティバル2007、08の入選出展された写真も掲示されている。

第七章.総括

1. サンゴ礁保全推進協議会の開催及び事務局運営

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会は、沖縄県自然保護課の事業である「民間参加型サンゴ礁生態系保全活動推進事業」により、平成 19 年度から設立の準備が進められてきた。平成 20 年 6 月までの協議会設立までは、準備会合を立ちあげ、あるべき協議会の姿や機能、体制などに関する議論が行われてきた（5 回開催）。それらの議論を元に協議会の設立趣意書と基本理念を作成し、サンゴ礁保全活動実施団体へ呼びかけを行い、平成 20 年 6 月 28 日に協議会設立会合を開催した。

協議会設立後は設立会合で承認された会長、副会長、理事とともに理事会を開催（2 回）し、協議会の運営体制について議論し、さらに総会の準備を進めた。理事会の他に、選挙管理委員会、企画委員会、総会準備委員会、広報委員会が組織され、各委員会で議論を行いながら作業を行った。

2008 年 12 月には第一回総会が開催され、協議会の規約や運営体制等について承認され、選挙により新たな役員が選出された。平成 20 年度は総会で承認された活動計画に基づき、活動を実施した。

平成 21 年度以降も、沖縄県自然保護課が事務局を担うものの、協議会の運営に必要な資金や労力は会員のボランティアによるところが大きく、協議会を継続・発展させるためには、多くの課題が残っている。それらの課題を解決するためには、会員の積極的な参加が必要である。

2. 「サンゴ礁保全活動プログラム集」の作成

平成 20 年度は、多様な分野の有識者及び関係団体からなる検討委員会を 3 回開催し、昨年度作成した「観光・レジャープログラム集（素案）」の修正及び完成と、「環境教育・普及啓発プログラム集」の作成を行った。

検討委員会での意見にもあったように、プログラム集を使用する人たちにどのように普及啓発を行っていくかが大きな課題である。

3. 「サンゴ移植マニュアル」の作成

前年度に引き続き、検討委員会の開催し、サンゴ移植マニュアルについての検討を行いながら、サンゴ移植マニュアルを作成した。また、サンゴ礁海域選定調査及び検証調査を実施した。

サンゴ移植マニュアルの「このマニュアルを読む前に」に紹介しているとおり、サンゴの移植については、様々な課題があり、まだ技術開発段階である。検討委員会での意見にもあったように、今後、サンゴ移植マニュアルの更新を行っていくことが必要である。

4. 「モデル地域活動」の実施

協議会とのネットワークを使った効果的な地域支援方法のケーススタディとして、地域のサンゴ礁保全に取り組む団体や海域利用者、地域住民等の参加を募り、サンゴ礁保全活動を推進する方策を検討するワークショップを開催した。また、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会とのネットワークづくりやサンゴ礁保全活動プログラム集およびサンゴ移植マニュアルを活用し、その後の成果や課題などについて評価し、協議会の体制やプログラム集、マニュアルへ反映させるためのモデル地域活動を実施した。

モデル地域活動から、協議会活動、サンゴ礁保全活動プログラム集、サンゴ移植マニュアルへ反映させるべき事項は、次のように整理できた。

【協議会活動】

- ①地域情報の収集方法と処理手法の具体化（即応性を如何に確保し得るか）
- ②地域のサンゴ礁保全ニーズに対応可能な人材の派遣
- ③地域の住民と自治会、自治体、環境保全に関する各種団体等を結びつけるためのキャンペーン活動の実施
- ④地域の利害関係者相互の協働意識が醸成されていない地域へ意識啓発を図るためのコーディネーターとなる人材の派遣と地域活動の支援
- ⑤協議会の存在と機能を各地域へ「知ってもらう・活用してもらう」ためのPR強化
- ⑥地域で実質的にサンゴ礁保全活動を推進可能なネットワークの母体（地域ネットワークの窓口）づくり
- ⑦地域からのサンゴ移植に関する情報や要望、疑問が速やかに地域へ回答されることが必要。
- ⑧限られた地域内の人材を束ねると同時に、地域と地域外の協力者とを結びつける役割が求められる。

【サンゴ礁保全活動プログラム集】

- ①環境保全やサンゴ礁保全に関して関心の薄い地域住民へ意識啓発を行う際の課題整理の方法、意識啓発を具体的に行うための手順や事例紹介
- ②地域の海域環境の現状を住民が利用しチェック可能な「チェック・シート」の作成
- ③地域でサンゴ礁保全活動を実施する際のネットワーク形成手法の提案
- ④地域の自治体（海域保全に関して意識が薄い自治体に対する）が環境保全プログラムとして利用可能なプログラム集の作成

【サンゴ移植マニュアル】

地域主体でサンゴ移植を実施する際の、以下のような基本的事項をマニュアルへ反映させた。

- ①地域内外で協力関係を形成する方法
- ②サンゴ移植する際の基本的な工程の整理

5. 「普及啓発活動」の実施

県民に協議会の認知度を高め、保全活動プログラム集及びサンゴ移植マニュアルを普及するために、広報活動、ワークショップ、シンポジウム、パネル展を実施した。広報活動、シンポジウム、パネル展では様々なメディアを通し、協議会の広報を実施し、ワークショップではサンゴ礁保全に関する問題を収集し、協議会へ反映させた。

本業務では、県民に協議会の認知度を高めることなどを目的としていた。そのため、新聞やラジオなど広く一般の人がふれるメディアを活用した。しかしながら、広報を行うだけでは、サンゴ礁保全に関心のない人たちは、サンゴ礁保全に関心を寄せることはほとんど無い。そのため、ワークショップやシンポジウムなどを開催し、既にサンゴ礁保全に関心のある層から、関心の無い層へサンゴ礁保全が広がることを期待した。今後とも、サンゴ礁保全を推進するために、関心のない層へいかに効果的な普及啓発を図るかが大きな課題である。

**平成 20 年度民間参加型サンゴ礁生態系保全活動
推進事業報告書**

平成 21 年 3 月

沖縄県文化環境部自然保護課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

Tel : 098-866-2243 Fax : 098-866-2240

Email : aa039004@pref.okinawa.jp

請負

(財) 沖縄県環境科学センター・(財) 自然環境研究センター・(株) 沖縄計画機構
民間参加型サンゴ礁生態系保全活動推進事業に関する検討調査共同企業体